

校長室だより

☆教育目標☆

自ら考え行動し、進んで行動できる生徒の育成
＜生活心得＞ 時を守り 場を清め 礼を正す
令和元年7月9日発行 No.7
富岡市立富岡中学校 校長 中村 喜雄

☆☆逆の思考（発想）を・・・☆☆

市内でも、ほとんど田植えが終わり、田に稲が整然と植え付けられ夏の風景となっています。さて、水無月というのは陰暦六月の異称です。水を田に注ぎ入れる時の月の意味のようですが、1年中で一番降雨の多い月です。では、何故、水無月なのでしょう。それは、地上ではなく天を中心にした見方によるからだそうです。このことを知り、なんとなく納得しました。

視点を変えてみると、世の中には、なかなか面白いと思うことがあるのに気づきます。二つほど紹介します。一つは、京都の木津川に架かる橋の話です。

木津川は昔から大変な暴れ川でしばしば洪水を起こしていました。その川に架かるのは、日本最長級といわれる全長356.6m、幅が3.3mの欄干（らんかん）のない木の橋で、「上津屋橋」と呼ばれています。この橋は、時折、時代劇のロケーション等にも使われています。渡し船の廃止とともに1951年に設けられたようですが、当時は永久橋を架ける予算がなく、かといって普通の橋では増水のたびに流されてしまうかもしれないという問題がありました。そこで、川の流れに逆らわない構造の橋が考えられました。つまり、川が増水すると橋板が自然



＜木津川に架かる上津屋橋＞

に浮かび、ワイヤーでつながれた橋板が8つに分割されて、吹き流しのように流れる仕組の「流れ橋」です。水が引いたらワイヤーを引っ張り、橋板を手繰り寄せて元に戻す。大変、経済的な橋だそうです。橋は流されないもので頑強に造らなければならないものとはばかり思っていた私には、この

橋の話は大変斬新で感動したことを思い出します。流れに逆らわず、橋板を流すことによって被害を少なくするという素晴らしい発想、豊かな思考に脱帽しました。まさに「逆の思考」そのものです。もう一つは、ある雑誌に創刊号に載っていたワイン販売業者の話です。その人は初め、ワインの価格を2,000円で販売しましたが、全くといっていいほど売れませんでした。そこで、価格を2,200円にして、そのうちの400円分を売り手と買い手が各々200円ずつ負担して環境保護のため寄付しますと明示したところ、たちまち売れるようになったということです。



この二つの話（流れ橋・ワイン販売）に共通するのは、逆の思考（発想）によって良い結果を出している点です。逆の思考（発想）を活かせば、生活をより豊かで充実したものにできるということでもあります。事実、世界で成功している企業の多くが、現状とは逆の思考（発想）を働かせ企業の成長につながっています。私たちの身近なところをみても、随分多くの事柄が、この逆の思考（発想）から生まれているのに気がつきます。

柔軟な脳をもつ生徒たちには、ぜひ、このことを伝えたい・・・
是非、御家庭で話題にしてみてください。

